

「神に不可能はない」
～あなたは信じ実行できますか～

ルカ1：5～80

ザカリヤは祭祀をしていました。この当時のローマは文明社会であり、新しいギリシャの価値観が入ってきてそれまで信仰という心だけで生きていられた時代から、現実には聖書の教えを実行できない時代に移っていました。その時代において祭祀は地位の高い職業でした。ザカリヤが神殿に入って香をたいているとき、御使いが現れ、妻のエリサベツに男の子を授け名前を「ヨハネ」と名づけるように告げられました。しかし、ザカリヤは自分や妻の年齢など現実を考えしるしを求めてしまったために、口がきけなくなってしまいました。一方、受胎告知を受けたマリヤは身重な身でありながら3ヶ月、105キロの道のりを叔母であるエリサベツに会いに出かけていきました。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばとおりこの身になりますように」（ルカ1：38）はしめめとは、当時の奴隷です。旧約の時代の主のはしめめ（預言者）たちはみな殺されました。この当時の女性にとって結婚前の女性が身ごもるということは死刑に当たることであり、自分のことをはしめめと言ったマリヤは、死を覚悟してこの身になるようにと宣言したのです。一瞬のうちに信仰の宣言をし、不可能と思えることを信じたのです。だからエリサベツがマリヤに会ったときに「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう」（ルカ1：45）と神の霊に満たされて言ったのです。神によって語られたことは必ず実現する、それが自分にとって悪いことが起ころうともそれは実現すればよい・・・自らを得ようとせず捨てたのです。マリヤが高められる女性になった理由はこれです。マリヤと同じ意味の名前であるモーセの姉であるミリアムもそうでした。殺せといわれていた子ども（母から預かった3歳以下であったモーセ）を命がけで川に流した結果、当時の王であったパロの娘がモーセを拾い、彼女の命がけの行為の結果彼女自身がミリアム（主が高められる高貴な女性）となり、紅海を二つに割り渡りきった後共に喜べる立場を得たのです。「アブラハム、イサク、ヤコブの神」・・・いつの時代であっても神に従うものに対して神がした約束は必ず果たすという予言の成就を意味しているのです。やがてエリサベツが子を生み、一度は信じなかったザカリヤですが、このときは神の約束を果たすべく「ヨハネ」という名前をつけました。子どもには親の名前をつけるという習慣を祭祀が壊すというのは大問題であり、そのために民たちも騒ぎましたが、彼は周りを気にせずに従いました。大事なものを捨て神に従ったのです。そしてヨハネと名をつけた瞬間に彼の声は戻り、神の言葉が成就したのです。このように神様が約束をし、一度私たちが失敗しても、もしあなたがその後に信じてあなたのすべきことをすれば、神様はあなたを通して約束を果たすことができます。約束がなされるために**①信じられないことこそ信じる**。目の前にあることは誰でも信じることができます。しかし「信じられないことこそ信じる」ことができることが、あなたが幼い時から父母から学んできたことなのです。3歳までに学ぶ「愛された」と信じる心から、両親がいつでも自分を愛してくれていると信じるのです。信じることはできないのは、あなたの中に裏切られたかと思っているからです。クリスチャンが例え裏切られても信じることは、心の中に「絶対に裏切られない」というものを持っている、つまり、本当の父である神が裏切らないと信じられるから子どもを愛することができるのです。私たちが持てる一番素晴らしい心は、「信じられないことを信じられる能力」です。「信仰は望んでいる事からを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」（ヘブル11：1）見えないものでも見えるといえる、これがイエス様がした御業です。私たちが信じて受け入れることができるということがどれだけ素晴らしいことなのか、もう一度再確認してください。アブラハムはイサクをいけにえに捧げると神に言われたときさえ、神は必ず応えてくれると信じていました。神様は信じてことをなすものに、必ず事を行う力を持たれている、つまり約束を果たされるのです。マリヤも受胎告知を受けたときに神を信じきり「死んでもいい」という覚悟で従いました。神の約束を果たす鍵を持っているのはあなたです。神様があなたにしようとする時に、何か失うようなことがあるかもしれませんが、しかしそれを恐れずに信じる恵みがここにあるのです。（ルカ1：37、38）あなたは信じられない領域のことを信じることができますか。信じさせるのは御霊です。しかし信じようとする心を持つのはあなたしかいません。神様が実現するといったことを信じるか信じないかで成功するかどうか決まります。神様は私たちが神よりいくらか劣る存在として作られましたが、その中で同じように作った一つがこの信じるという力です。神様はあなたが成し遂げられると信じています。だからあなたも神によって語られたことは必ず実現すると信じきってください。**②周りを恐れぬ**。神様のことをしようとするとき必ず周りの抵抗勢力があります。「やめなさい」といわれたときに自分の考えであれば揺らぎます。しかし神がせよと言ったことは揺らぎません。神様の計画の中に当てはまる神の計画を知っていて信じようとする人は必ずそうなります。あなたの短い経験で判断するのか、神様になるといったことを信じてそれを行う人生を選ぶか、これはあなた自身で決めることです。あなたは今信じようとする気持ちと、周りを恐れぬ気持ちを持っているでしょうか。神様に自分が何をすべきかを聞いてください。そしてそれを信じる努力をしてください。あなたに任されていることは色々な人から語られているはずですが、神様は捨てることを通してあなたに得させる力を持っています。だからあなたもそのプライドを捨ててください。そしてあなたの人生の中心がどこにあるか考えてください。何かに執着しているとしたらそれは自分のためではないですか。周りを恐れ、自分を恐れ、自分の生活を恐れているから執着するのです。「そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」」（ルカ1：34）このときマリヤにも色々な声が聞こえたはずですが、しかしその後、「この身になるように」と宣言し自分は守られると信じました。そして最終的には死んでもかまわないと思えたことが神の栄光だったのです。**③あなたの役割を果たす。（ルカ1：58～）**ザカリヤは「ヨハネ」と書いただけでした。役割とはこのようなことです。あなたがせよと言われていることの1つはそんなに難しいことではないはずですが、しかし周りを恐れ、あなたのプライドがそれをさせないようにしているだけなのです。マリヤは身重な身で神の栄光を見にエリサベツに会いに行きました。あなたの役割を果たしてください。信じて恐れず実践していけばあなたの計画は必ずなります。あなたの人生はあなただけのものではありません。だからあなたでとどめないようにしてください。神の言われる声にしっかりと耳を傾け、周りを恐れず、信じて実践するものになりましょう。